

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Space Kids沖縄		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年4月1日		令和8年4月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者評価では、こどもが安心感をもって通所していること、通所を楽しみにしていること、支援に満足していることについて高い評価が見られた。 こどもの年齢や発達段階に合わせた関わりを行い、安心して過ごせる場所として受け止められている。	こどもの気持ちや体調、その日の状態を確認しながら無理なく活動へ参加できるよう支援している。 個別活動と集団活動を組み合わせ、こどもが「できた」「楽しかった」と感じられる経験を重ねられるようにしている。 また、必要に応じてクールダウンできる場所や、落ち着いて過ごせる環境を整えている。	今後もこども一人ひとりの安心の条件を職員間で共有し、安心して通所できる環境づくりを継続する。 活動のねらいや成長の様子についても、保護者へより分かりやすく伝えられるよう、記録や写真、具体的なエピソードを活用していく。
2	保護者からは、こどもの特性や悩みに対して職員が一緒に向き合ってくれることが安心につながっているとの意見が見られた。 個別支援計画に基づき、こどもと保護者のニーズを踏まえた支援を行っている点が強みである。	日々の観察や保護者からの情報をもとに、こどもの得意なこと、苦手なこと、安心できる関わり方を整理しながら支援している。 必要に応じて保護者と情報共有を行い、家庭での様子や事業所での様子をつなげて理解できるよう努めている。	個別支援計画の説明時には、支援目標や具体的な支援内容がより伝わりやすいように、こどもの実際の姿や支援場面を交えて説明していく。 職員間でも計画内容を共有し、日々の支援の中で一貫した関わりができるようにする。
3	生活空間の清潔さや、こどもに合わせた活動環境について肯定的な評価が見られた。 こどもが安全に、心地よく過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	活動内容やこどもの年齢に合わせて、机や家具の配置、活動スペースの使い方を工夫している。 清掃や整理整頓を行い、こどもが安心して活動できる環境を整えている。 また、避難訓練や安全計画、ヒヤリハット共有など、安全管理に関する取組も継続している。	職員配置や動線、玄関周辺を含めた安全面について、こどもの行動特性を踏まえながら継続して確認する。 環境調整で防げるリスクを整理し、安心・安全を守りながら、こどもの主体性も大切にできる環境づくりを進める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムや保護者同士の交流、きょうだい支援については、「わからない」や「どちらともいえない」の回答が見られた。 個別の相談対応は行っているものの、保護者全体に向けた学びや交流の場としては、まだ十分に見える形になっていない。	日々の送迎時や連絡での個別対応が中心となっており、保護者会や家族支援プログラムとして体系的に実施する機会が少なかった。 また、きょうだい支援についても、具体的な取組として保護者に伝わりにくい状況があった。	保護者会や小規模な座談会、家庭での関わり方に関する情報提供など、保護者が参加しやすい家族支援の形を検討する。 きょうだい支援についても、イベント開催に限らず、家庭全体を支える視点で相談対応や情報提供を行っていく。
2	保育所、こども園、地域のこどもとの交流については、一定の取組はあるものの、保護者には十分に伝わっていない面が見られた。	地域散策や行事参加など、日常の中で地域と関わる場面はあるが、それを児童発達支援の取組として整理し、保護者へ伝える機会が少なかった。 また、未就学児の場合は安全面や発達段階への配慮が必要であり、交流機会の設定には慎重な準備が必要である。	地域散策、園との連携、就学に向けた情報共有などを、支援の一環として整理していく。 活動後には、こどもが地域の中で経験したことや、他者との関わり様子を保護者へ伝え、地域で育つ機会として見える化していく。
3	従業者評価では、支援終了後の振り返りについて課題が見られた。 送迎や記録業務の影響により、その日のうちに職員全体で共有する時間が確保しにくい状況がある。	支援終了後は送迎、記録、片付け等が重なり、全員で振り返る時間を確保しにくい。 特に送迎距離や職員体制によっては、全体共有が難しい日がある。	支援終了後に全員で集まることが難しい場合でも、翌朝の短時間共有、記録システムでの申し送り、重点児童の確認など、現場に合った振り返り方法を整える。 こどもの小さな変化や良かった支援を共有し、次の支援に活かせる仕組みを作っていく。